すみよし

Christus resurrexit,

quia Deus caritas est! Alleluia

２００９年　イースター号　第１７７号

Copyright © 2009 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

聖　　句

「神のなされることは

皆　そのときにかなって　美しい」

１９８５年日本聖書教会発行の旧約聖書より
伝道の書　３章１１節
（新共同訳　コヘレトの言葉　３章１１節）

目次

Copyright © 2009 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

《 御 復 活 》

シリロ・オラデレ神父

この間、バラード神父さんは、神に召されて天国へ行かれた。

1958 年から、バラード神父は、一番貧しい人々のために働いて下さいました。ジャパンエマウスを設立しました。たくさんの人々がエマウスの運動の精神に基づいて、貧しい人々のために働いていました。今でも働いている。

大阪暁光会のリーダーの谷さんは、その大勢の中の一人です。リーダーの谷さんはリヤカーをひいていたバラード神父の姿を見て、カトリック信者となり、暁光会の精神に基づいて、バラード神父さんと同じことをやろうと決心した。いまも年はとりましたが、大阪暁光会に住んでいる。

しかし、エマウスというのはどんな特徴があるのでしょうか？
第二次世界大戦の後、アベピエール神父がエマウスを設立した。パリから 20 キロメートル離れたゴミ捨て場に、最初のエマウスのコミュニティが生まれました。どうしてエマウスという名前を付けたのでしょうか？
ルカによる福音、24 章 13 節から 35 節によると、エルサレムからエマオ村まで同じ距離でした。

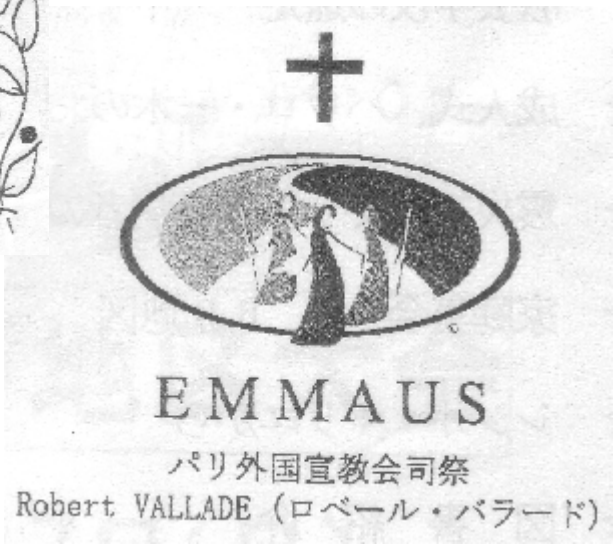
エマウスの共同体に入るために、三つの条件が必要です。
「家がない」「家族がない」「仕事がない」。新しい人が来ると、その人の過去は絶対に聞かない。
聞くのは名前だけ。名前だけで、ぜんぜん知らない人をエマウスの共同体は受け入れる。
ルカによる福音によると、あのエマオの二人は、ぜんぜん知らないイエス様を自分の家に泊まるよう招いた。この二人は、もし、あの知らない人に対して知らん顔をすると、こんなスバラシイ出来事はなかった。あの二人はイエス様を知ることもなかった。そして家に入って、食事が始まって、イエス様がパンをさいてから、あの二人は、その知らない人がイエス様であるとわかった。同じようにエマウスの共同体で食事と仕事を分かち合うときに、「ああ、この人は私の兄弟イエスだ」と悟る。

60 年間のバラード神父さんの、日本での活動の中で、頭にも、心にもこの深い精神（神学）を味わう事が出来たと思う。バラード神父さんは、ホームレスのために働き、彼らと一緒に住んでいた。そして最後に彼らと同じように死にたかった。最後の三日間、三宮にある三聖病院で過ごした。「私は単なる貧しい人のように死にたい」とそばにいた人々に話していた。誰もいないでホームレスのように死にたかったと思う。

Copyright © 2009 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

天国に行って神様と出会ったときに、マタイによる福音 25 章 34 節
「飢えていたとき、家がないとき、あなたは私を受け入れてくれた。さあ、世のはじめから、あなたのために用意されている国を受けつぎなさい。」と、バラード神父はびっくりしながら聞いていたでしょう。

心の貧しい人々は、幸いである、
天の国はその人たちのものである。
（マタイ　５：３）



１９１４年4月２６日	フランス・ニエッスに生まれる
１９３９年6月２９日	フランス・アングレームで司祭叙階
１９４９年１０月～	パリ外国宣教会入会
１９５０年１０月１１日	来日。カトリック夙川教会で日本語の勉強
１９５６年	神戸エマウスを創立（暁光会本部）
１９６０年	東京関町東、大阪西成エマウスを創立
１９６１年	箕面市のあかつき特別養護老人ホーム創立
２００９年2月１７日	帰天（９４歳）

（葬儀ミサの時に頂いたカードから）

目次

Copyright © 2009 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

《 目 次 》

☆ 聖 句 ・・・ 2

☆ 御 復 活　シリロ・オラデレ神父 ・・・3～ 4

☆ 目 次 ・・・ 5

☆ 地区大会案内 ・・・ (5)

☆ 赤波江神父様司祭叙階２０周年感謝ミサ・お祝い会 ・・・・・ 6

☆ 四旬節黙想会 ・・・7～ 8

☆ 聖 人 伝 ・・・・・9～１０

☆ 新 年 会 ・・・ (１２～１３)

☆ 教会学校の遠足　甲子園教会へ ・・・ (１４～１５)

☆ 成人式、聖パウロ・三木のお祝い ・・・・・・１１

☆ 震災祈念ミサ、世界病者の日 ・・・ (１８～１９)

☆ 家庭集会　B,D 地区 ・・・ (２０～２１)

☆ レジオ・マリエから ・・・ (２２～２３)

☆ 図 書 紹 介 ・・・１２

☆ 教 会 日 誌 ・・・ (２５)

☆ 信 徒 動 静 ・・・(２６～２７)

☆ 後 記 ・・・１３

題字　千葉　健吉

表紙　甲斐　義明

太字はホームページ転載分、カッコ付きは本紙のページを示す

Copyright © 2009 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

ヨセフ　赤波江　豊神父様

司祭叙階２０周年感謝ミサのお説教より

２００９・３．２２（日）

今日のこの祭服は、私が 1989 年 3 月 21 日大阪カテドラル聖マリア大聖堂で叙階された時に、カルメル会のシスターが作ってくださったものです。私が生まれた時そのままの姿で今日のミサにのぞんでいます。

２日前の３月２０日、大阪カテドラルで新司祭の叙階式があり参列しました。思い起こせば、私が初めて叙階式に参列したのは高校生の時です。その時の新司祭のうれしそうな顔が、今でもはっきりと心に残っています。その時閉祭の歌では、復活祭の「いざ　よろこべ（カ・２０３）」が歌われたのも記憶しています。神学校に入る２年前には、松浦司教様とその同級生の方４人が叙階されました。その時の閉祭で「ごらんよ空の鳥（３９１）」を初めて聴いて良い歌だなあと思いました。それから２年後、神学校の門をたたき、６年後の１９８９年に司祭になったのです。「どうして司祭に？」とよく聞かれますが、私はいつも答えられません。子供の時から何となくなりたかったのです。「なりたいからなった。他に理由はなく、気がついたら神様がお恵みを与えてくださっていた。」としか言い様がないのです。１０才位で参加した錬成会の時、（今の大阪教区大司教館が小神学校でした。）今まで聴いた事もないような美しい曲が流れ、感動しました。「秘跡にこもりて（カ・２４６）」という曲です。その頃は私はあまり勉強が好きではなかったので、神学校という所は勉強はせずに、毎日あのように美しい歌をうたってお祈りをしているのだろう・・・と勝手に思い込んだのでした。でも私にとってそれは決定的な光りとなりました。

今日の福音に「真理を行う者は光の方にくる。その行いが神に導かれてなされたという事が、明らかになるために。（ヨハネ・３・２１）」とありました。「感動する」とは、その人の心の中に大きなエネルギーがわいてくることです。夢を持っている人は既に幸せな人です。夢を持っている子供は目の輝きが違います。若いときの感動的な思いは一生の宝。場合によったらその人の人生を左右することさえあります。親に心配を掛けない生き方はもちろん良い事ですが、もし何か大きく感動したものがあればそれに没頭して、（こんな大胆な言い方がゆるされるなら）むしろ親に迷惑を掛けるくらいの人生を歩んで欲しい。そして、それはきっと親の幸せでもあるはずです。もし、自分が思っていた仕方で夢が叶わなくても、そのエネルギーを又他の方向に向ければよいのですから。子供達、夢をもちなさい！！

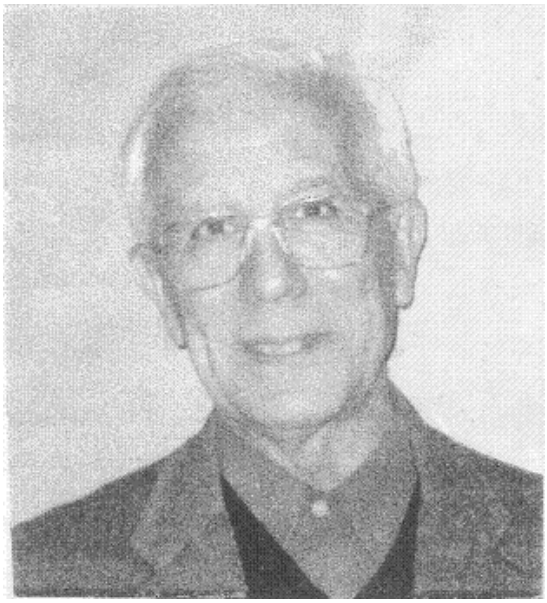
ここにいる子供達の若い心に、神様が光を与えて下さる事を願っています。そして、誰かが私の後を継いで、司祭かシスターになって下さるように祈っています。（編集部）

目次

Copyright © 2009 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

《四旬節黙想会》「ゆるしあいとはなんでしょうか」２００９・３・２９

講話　ホアン・マシア神父様



３月２９日主日ミサの後、イエズス会ホアン・マシア神父様をお迎えして、四旬節黙想会が行われました。白髪長身の慈愛に溢れるまなざしと優しく平易な語り口で、身近な話題を盛り込みながら、キリスト者にとって「ゆるし」とは何かを考え、自分の心の中を見つめ直す良い機会となる講話でした。以下はその日の講話の要約です。

初めの祈りにかえて一緒に「詩篇５１を唱えましょう」

神は私を洗い清めてくださり、私は雪より白くなった。
神が私を喜びで満たしてくださり、私の罪を見つめず、
犯した罪を拭い去ってくださった。
神よ、私のうちに清い心を造り、聖なる息吹で私を強め、
新たにしてください。
救いの喜びをいただいて、喜び仕える心を捧げよう。
主よ、私の口をひらいてください。私は賛美を捧げる。
神は「いけにえ」などを望まれず、「いけにえ」を捧げても喜ばれない。
私の捧げものは砕かれた心、神は悔い改める心を見捨てられない。

共同回心と個人的回心

両方とも実は同じなのです。私達は毎回ミサのときに「全能の神と兄弟の皆さんに告白します。・・・」と皆で心を合わせて唱えます。個人的に赦しの秘跡を受けるときは、司祭の前で自分の言葉で告白します。神からのゆるしが与えられるのは同じなのです。
私たちは毎日呼吸をしています。呼吸困難になれば病院にいって薬を貰う。必要ならば酸素吸入をしてもらう。大切なのは形ではなく、心なのです。その時一番必要なことをしましょう。ミサに与るたびに赦しの秘跡を受けているという認識を持ちましょう。

私は若い頃、マルティーニ枢機卿の言われた言葉が深く心に残っています。

Copyright © 2009 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

「告白する人も、それを受ける人も（司祭）自分が罪人であることを思い出させてくれる」。

主の祈り

ミサ中、主の祈りの中で、「私たちの罪をおゆるし下さい。私たちも人をゆるします。」と唱えます。私たちは本当に人を心からゆるしているのでしょうか。きらいな人、いやな人が一杯いる筈です。自分がどうしてもゆるせない人をゆるせるようにして下さいと、祈るのです。

テロリスト達がなんの罪もない子供たちを殺し人々を傷つける。殺人の犯罪者もいる。彼らの行為に対して、「怒らないで、憎まないで」ということではない。その人たちが罪を認めて回心するようにと祈るのです。同時にその人たちの罪をゆるせない自分をゆるし、怒りと憎しみから解放して下さいと祈るのです。

福音は祈り

死刑廃止の運動もそこに意味があるのです。加害者は一人の被害者がいれば、その家族、友人はもとより、同時に自分の持っている一番良いものをも殺してしまった被害者なのです。一番良いものとはカトリックでは神（聖霊）の息吹であり、仏教では仏性と呼ばれるものです。加害者を死刑にしても殺された人は戻ってきません。勿論被害者の感情や人権を無視するものではなく、罪の償いは十分にした上で、加害者の人間性の中にある聖霊の息吹に気付かせて回心へと導きたい。

あるアメリカ人の家族は自分の娘を殺した加害者に対して、数年かかってこのような結論に到達し、今では死刑廃止犯罪被害者の会に名を連ねています。

「敵を愛しなさい」というイエスの言葉は、敵(相手)の回心のために祈りなさいということ。

「毒麦」のたとえ（マタイ１３：２４～３０）でもイエスは毒麦を刈り取らせず、十字架の上で亡くなる前に「人々をゆるしてください」と神に祈り、また神は弟アベルを殺したカインを殺すことをゆるされなかった。（創世記４：１５）

仏教でも同じような話があり、子供のときに父を殺された法然上人は、報復行為には及ばず出家した。

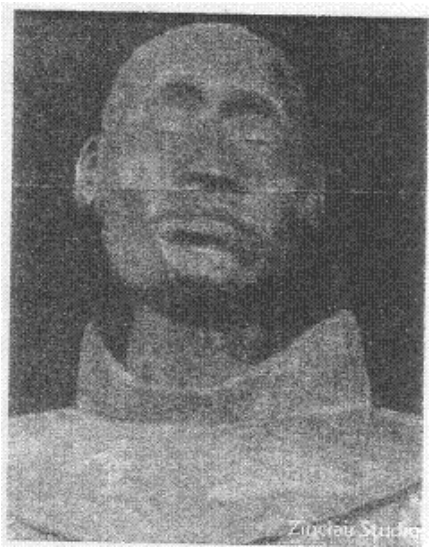
すべての人の心の中にねたみ、憎しみ、怒りがある限り、何らかの形で加害者でもあり、被害者でもあるこの世にあって、社会全体をいやし、和解し、暴力の連鎖を断ち切るために、福音の中でゆるしあいの心を持って生きることが出来るように祈りましょう。（編集部）

目次

Copyright © 2009 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

【聖人伝】

≪聖ベネディクト（ムーア人）・羊飼いから修道院長へ≫　４月４日



聖ベネディクトは1526年イタリアのメッシナ付近でお生まれになった。父も母も共に奴隷階級に属したが、母親は幸いにも自由の身になり、その長男聖ベネディクトも同様解放してもらうことが出来た。貧しくそして卑しかったが、両親はいずれも信仰厚く、ベネディクトも敬虔なキリスト教徒として育てられた。ベネディクトは成長すると、牧童として牛や羊の番の仕事をさせられたが、彼はその時間を利用し、思う存分祈りや黙想をすることが出来た。神様は彼の素朴さを愛され、その知恵を豊かにお照らしになった。又彼は謙遜の徳を実行する機会に恵まれていた。というのは他の羊飼い達は彼の信心深いことに感心する一方、彼の肌の色の黒さ、奴隷出身で身分卑しいことを笑い者にしていたからである。しかし彼は非常な忍耐をもって一切を甘受し、誰にでも愛情深く接し親切であった。天の御父は彼の善徳を喜ばれ、一層豊かな聖霊のお恵みをいただくことが出来た。

１８才の頃、名高い貴族出身のランザという山修士が通りかかり、百姓たちがベネディクトを笑い者にしているのを見て人々をたしなめ、「この人はいつか、きっと偉くなって名を上げるに違いない」と言い、彼に「ここでこんなことをしていても仕方がない。牛などは売ってしまって私についておいで」と言った。
彼には全財産である大事な牛であったが、昔、使徒たちが主の召しだしを受けた時、舟も網も全て捨ててついて行った時のように、すぐにその言葉に従った。

その山修士にはすでに何人か弟子がいたので、教皇ユリオ三世はその一団を小さな一修道会として認可された。人々はこの会員たちの聖なる生活振りに感嘆して、方々から教えを聴きに来た。会員たちはそれを迷惑に思い、祈りと黙想の邪魔をされないため、

Copyright © 2009 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

他の静かな場所に移った。しかしすぐに世間の人々に発見され、また聖ベネディクトの祈りのお陰で不治の病人が癒されたため、訪ねてくる人々は増えるばかりであった。

　やがて聖ベネディクトは修道会の会長に若くして選挙された。そのうち教皇ピオ四世の命により、この修道会はフランシスコ会と合併することとなったので、聖ベネディクトは平修士として新しい修道院に移り、料理係を命じられた。しかし暇さえあればいつもお祈りに没頭し、時には祈りに夢中になって台所仕事を一切忘れてしまう。しかしそんな時は不思議と天使たちが彼に代って食事の用意をして下さったという。また貧しい修院とて、時には料理の材料に困ったが、ベネディクトは失望せず一心に神にお助けを願い、幾つかの桶に水を汲みいれた所、ピチピチとした魚が溢れるほど現れ、料理しても余るほどだった。

そしてこのような不思議な奇蹟は幾度となく起こった。神様はベネディクトの素直な心と深い信仰を喜ばれ、特別に報われたのでしょう。

　やがて 1578 年、彼は 52 歳でパレルモの修道院の院長として選任された。彼は前述の如く、教育もなく、読み書きも出来ない平修士であったが、学識ある司祭も説教師も喜んで彼の命に従った。彼の聖徳が全ての人々を心服させたからである。

時として彼も説教しなければならないこともあった。その時彼は聖書を正確に説明し、人々に多大の感動を与えた。聖霊御自らが彼の口を借りて語り給うと聴衆は思った。

　三年間修院長としての任務を果たした後、聖ベネディクトは謙遜にもまた台所に戻って、一介の料理番として働かれたが、相変わらず彼の祈りを求めて大勢の人々が訪ねて来た。

そのうち彼はご自分の死の日を予知し、1589 年 4 月 3 日、涙と共に

秘跡を受けられた。

全ての人の赦しを求め、イエズス・マリアの御名を唱えつつ、翌４日安らかに天の故郷にお帰りになった。彼は今、パレルモ市の保護の聖人として人々に大事にされておられる。（編集部）（写真はカトリック新聞から）

目次

Copyright © 2009 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

《 聖パウロ三木のお祝い 》　　２月１日(日)

当教会の守護の聖人である聖パウロ三木のお祝いがありました。
恒例のおぜんざいにみんな温まりました。

日本二六聖殉教者への祈り

聖パウロ三木と同志殉教者よ、
あなたがたは京都から長崎までの
十字架の道を歩み、キリストのためにいのちをささげました。
わたしたちがあなたがたにならい、勇気をもって信仰の証を立てることが出来るように導いて下さい。わたしたちがどんな試みにあっても、終わりまで耐え忍ぶことが出来るように力づけて下さい。
わたしたちがキリストの栄えを求め、救いのために働くことが出来るように取り次いでください。

アーメン

目次

Copyright © 2009 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

《 図書コーナーより 》

「ローマ帝国に挑んだ男」　　- パウロ－　　DVD

熱心なユダヤ教徒サウロはキリスト教徒を迫害する事こそが神の御心にかなう事であると信じ、自らキリスト者を迫害するためにダマスコに向かいます。
その途中、衝撃的な出来事に遭遇し、文字通り目からウロコのようなものが落ちる結果となります。（使徒言行録９章１８節）
迫害者であったサウロが回心して宣教の使徒パウロへと変身するきっかけとなったものは一体何だったのでしょうか。
パウロの半生が映像によって臨場感溢れるストーリーとして描き出され、聖書をより理解しやすくしています。
ご推薦
カトリック中央協議会広報、池長大司教、高見大司教、晴佐久神父

「いのちのバトン」　　９７歳のぼくから君たちへ

詩と文　　日野原重明
絵　いわさき　ちひろ
発行　ダイヤモンド社

「この本は、ちひろさんの絵と私の詩とのいのちについてのコラボレーションです。」親子で楽しく読める一冊。もちろんずっと前に小学生だった大人の方にも。（　本の帯より　）
聖路加国際病院名誉院長の日野原先生が、いわさきちひろさんの絵をご覧になって、子供時代を思い出し、絵と共鳴しながら詩を作られて出来た本です。絵だけでは開かれなかった扉を開けて新しい世界が広がります。

ご紹介しました DVD,本は２階図書コーナーにありますので、ご利用ください。

目次

Copyright © 2009 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

《 後 記 》

「森の時計はゆっくり時を刻む。人の時計はだんだん早くなる。」
この言葉をはじめて耳にしたとき若く「人の時計」に乗り遅れまいと懸命。
「人の一生なんてあっという間、本当に短いよ。」見舞いにいった私に、叔父がつぶやいた言葉。桜咲く度に思い出すのです。
最近はあっ、という間の１週間。ア・アという間の１ヶ月。嗚呼、今年ももう四旬節・・・せめて心を森の時計に切り替えて、冬去り花咲き木々萌え出る季節の中で、ゆっくり静かに新しく主が訪れて下さるのを待ち望めますように。
（竹内）

☆　☆　☆

Ｂ地区の甲斐義明さんに今年の新年会から写真撮影の協力をして頂いています。
そして表紙も今年１年、甲斐さんの作品です。

「すみよし」　第１７７号
発行日　：　２００９．４．１２
編集・発行　：　広報チーム
編集責任者　：　橋本光子
発　行　所　：神戸市東灘区住吉宮町２－１８－２３
カトリック住吉教会
ＴＥＬ　：０７８－８５１－２７５６
ＦＡＸ　：０７８－８４２－３３８０
http://www.sumiyoshi.catholic.ne.jp
製版・印刷　：　信徒有志

目次

Copyright © 2009 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.